

令和 4 年度 学校評価報告書

園 名	母子幼稚園
-----	-------

1 教育目標

ふるさとを愛し、よく考え、
心豊かにたくましく生きる園児の育成
「やってみよう、たのしもう、つづけてみよう」

2 重点目標

- ①少人数の特性を生かした保育の創造
- ②子どもの主体性を育む保育の創造
- ③人と関わる力を育てる保育の創造

3 自己評価結果

分野領域	評価項目	幼稚園の取組状況・改善の方策	4 学校関係者評価
教育課程	○母子ならではの少人数保育を創造する。 ○幼児の主体性を育成する。 ○地域の自然を保育に生かす。 ○人と関わる力の基礎を育む。	・小学校の教育プランと方向性を一本化し連携をとりつつ実践していった。連絡を教育内容まで掘り下げることにより個々の関わりが充実させることができた。	小学生たちと共に過ごす園児の姿を見ていると、母子の教育は8年間で捉えられていることを実感する。
保健管理	○健康を維持する為の基本的な生活習慣を身につける。 ・活動後ごとに手洗いをする。 ・食後の歯磨きを定着させる。	・感染症対策を視野に入れながら、年齢に応じた指導を日々一貫して行い、身に付いていくように努めた。2学期後半は就学を見据えながら小学校との連携を図りつつ生活習慣自立を目指した。	自分の健康を守る為に自分でできる衛生習慣を年齢に応じて身につけていく指導は望ましい。引き続き定着に努めてほしい。
安全管理	○様々な災害を想定した教育を計画・実施し、幼児の安全意識を高める。 ・避難訓練 ・訓練後の指導 ・地域防災訓練	・小学生と共に様々な場面を想定した避難訓練に参加した。その後年齢に合わせた安全学習を継続して行うようにした。機会を逃さず紙芝居や絵本等も使用しつつ命の大切さを理解できるよう努めた。	様々な避難訓練の実施と共に、地域防災訓練もパネル掲示で実施した。今後も学校園と地域が連携した訓練を工夫し実施したい。
人権教育	○幼児の体験や経験を通し、自尊感情を育むとともに、相手を思いやる心を育てる保育を創造する。	・人権感覚の育成には園施設が幼児にとって安心できる場であり、その中で日々幼児の自分が大切にされている実感の積み重ねが不可欠である。互いが尊重し合える環境づくりに努めた。	人権感覚の育みは、幼少期から始まっている。今後も継続した取り組みを期待したい。
子育て支援	○地域の様々な人が集う場を提供することで、地域の縦の関係づくりを支える。 ・子育てしやすいよう支援する。	・園庭開放では親子共に楽しめる内容を、講師を招聘する等毎回工夫した。今年度も子育て世代が集い、交流する姿が見られた。預かり保育も園児が笑顔で過ごす姿を見て利用回数が増えた。	園庭開放は保護者・小学生に好評である。預かり保育も保護者が大変助かっている。園児だけでなく地域の帰省した幼児たちにもぜひ対象を広めてほしい。

5 総合的な評価結果

- ・少人数の園の特性を生かし、個々に合わせたきめ細やかな環境構成と援助ができています。
- ・保護者の方には園教育の内容を理解いただきながら、より一層よりよい幼児教育が行えるようにと様々な方面から支援いただいた。地域・保護者の協力あってこそその母子ならではの教育である。
- ・教育の方向性を小学校職員も含めた全職員で共有しながらの園運営ができています。

6 総合的な学校関係者評価

- ・園児たちは自分らしさを発揮し、また互いのよさを生かしながら生き生きと園生活を過ごしている。これも日頃のきめ細やかな支援・指導によるものである。
- ・母子幼に通う園児は母子の宝である。今年度発足した「母永『宝と夢』里づくり協議会」を中心に更なる協力をしていきたい。
- ・コロナ後の行事への地域参画の在り方については今後も幼小と話し合いを続け、新たな方法を考えていきたい。